

## 多様な里山整備について

北信地方事務所 林務課 <sup>たかぎ</sup>高木 <sup>ひさと</sup>久登

### 要 旨

木材価格の低迷や、生活資材が安価で簡便な石油製品に取って代わられた等の理由によりほとんどの人が里山に目を向けなくなってしまった結果、手入れ不十分な里山が目につくようになって久しい。

ところで、最近になって里山に対する再評価が高まり、その整備による山村の活性化が望まれるようになってきた。そこで、今後の里山林整備の具体的な方法を模索するために「木材利用」「総合利用」の2つの取組み事例について述べたい。

### はじめに

北信州（北信地域）の森林面積は77,700haで民有林は48,700haである。このうち人工林は31%でスギが約8割を占め7齢級以上の林分が52%となっている。一方、天然林は69%であり原木きのご栽培、山菜栽培に適したフィールドが豊富である。なお、スギ林は県下民有林スギの22%、ブナ林は県下民有林ブナの54%が北信州に賦存している。

北信州を大別すると、高社山を境として南側を「岳南」、北側を「岳北」とされている。岳南は岳北に比べて積雪は少なく優良なスギ林が成立している。岳北は豪雪地帯に属しスギ林の成長に多くのハンディキャップを負っているものの、広葉樹林が多く原木きのご栽培、山菜栽培等に適したフィールドの大半を有している。（写真-1）

今回の事例地は「岳南」「岳北」からそれぞれ1地域をとりあげた。



写真-1 原木きのご栽培地（ナメコ）

## 1 里山スギ林を対象とした取組 (岳南・中野市間山地区)

### (1) 間山地区の概要

位 置 中野市の南部 (高山村に境を連ねる)  
 世帯数 203戸  
 森林面積 513ha (うちスギ 371ha)

### (2) 経過

#### ア 間伐方法事例地の作成

背景として地元間山区、中野市、中野市森林組合の森林整備に対する熱意は高いものがあった。しかし、間伐の必要性は理解できるものの、森林所有者の立場からすると出費の面で抵抗があるというのが現実である。

そこで列状間伐と高性能林業機械の組合せを用いた収入間伐により所有者の出費無しで間伐を進める方法をとることとした。

平成9年度は、この方法を地区の人に知ってもらうために具体的な事例地 (写真-2) を作り、実際に見てもらうこととした。

事例地の概要は表-1のとおりで、地区の人に伝える事ができた。

表-1 事例地の概要

場 所	中野市間山集落から見える個人有林
森林所有者	中野市間山地区の人
間伐方法	3残1伐の列状間伐
実施面積	4.03ha
作業体系	チェーンソー … タワーヤーダ … プロセッサ … トラック
事業実施	北信木材生産センター
販売材積	303.399m <sup>3</sup>
総収入額	5,583,132円 (18,401円/m <sup>3</sup> )
総経費	4,782,060円 (15,761円/m <sup>3</sup> )
販売収支	801,072円 (2,640円/m <sup>3</sup> )

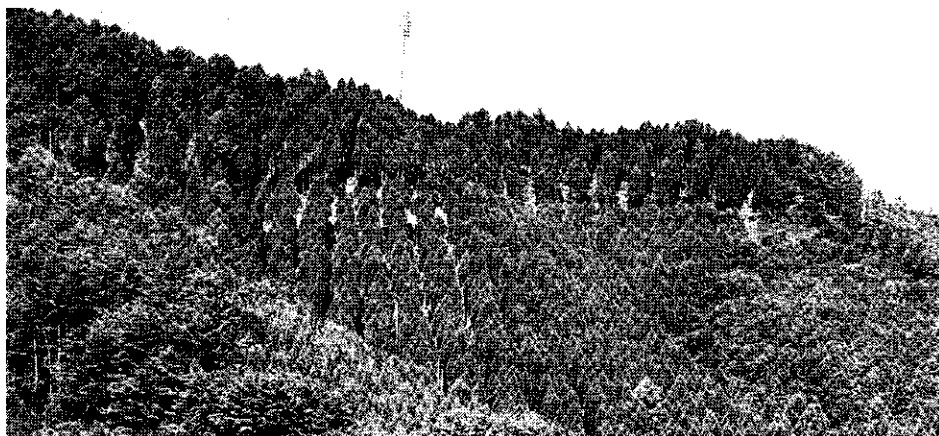


写真-2 列状間伐事例地遠景

また、市町村長、市町村関係者、森林組合長はじめ関係者、下高井農林高校などを対象に計14回の現地研修を行い啓蒙普及を図った。

#### イ 収入間伐地の集団化

この事例地の状況等を林務課でパンフレットにまとめ、これを活用しながら中野市森林組合が中心となって地区懇談会を開催し各森林所有者から集団間伐実施のための承諾書（次ページ参照）の取得を進めた。これにあたっては区長、組長、地元選出の森林組合理事の理解と協力が大きな威力となった。この結果、平成10年度実施分として52haの集団化が図られた。

### (3) 実行結果

集団化による収入間伐は6月から11月まで実施された（表-2）。なお単価値は平成11年1月時点で精算が済んだものについて記載した。

表-2 収入間伐結果

場 所	中野市間山地区
森林所有者	中野市間山地区の人
間伐方法	3残1伐の列状間伐
実施面積	52ha
作業体系	チェーンソー…タワーヤード…プロセッサ…フォワーダ…トラック (トラクタも併用) (小運搬)
事業実施	北信木材生産センター
販売材積	882.860m <sup>3</sup> (暫定数値 23.12ha分)
総収入単価	15,742円/m <sup>3</sup> ( " )
総経費単価	14,749円/m <sup>3</sup> ( " )
収支単価	992円/m <sup>3</sup> ( " )

販売材価が平成9年度より落ち込んでしまっているが、最終的には収支はプラスに終わる見込みである。

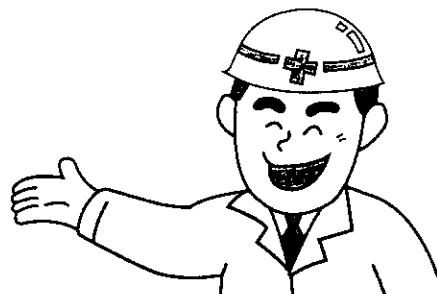
実施済み林分は林内が明るくなりきれいになった。

森林組合は現在も平成11年度に向けて承諾書の取得に努めている。そのなかで平成9年度から10年度の実施地を見た所有者が自発的に間伐申込をしてくるケースが出てきている。このことは啓蒙普及の成果といえる。

平成11年度集団間伐実施予定地は約50ha確保されている。これが進捗すれば間山地区の里山はより面的に健全化すると思われる。

また、この間伐が継続している大きな要因は、地元の理解がある事と所有者の経費負担が無いという2点に尽きる。このため今後はアドバイス、意見交換を続けると共に、恒常的に所有者の経費負担が無い状況をつくるのが課題である。さらに、他地域にも里山人工林整備の手法として普及させて行く事も課題である。そのための手段の一つとして、地域懇談会用のビデオを作成したので活用したい。

# 間伐を行うには——



- あなたの所有する森林で収入間伐などを行いたい場合は、次の承諾書を森林組合に提出してください。

## 間伐実施承諾書

平成 年 月 日

森林組合長 殿

住所

氏名

TEL

私は、下記の森林について木材を有利に販売してもらうため、貴組合に実施期日を一任し間伐事業の実施をお願いします。  
 なお、間伐事業に着手する前には連絡をしてください。

### 記

所在地	林小班	樹種	林齢	備考

森林共済セット保険(保険加入例) (単位：円)

- 収入間伐をした事業地は、雪害などの気象災害に備えるため、森林共済セット保険への加入が望まれます。

林齢	樹種	5年分(保険料)	1ha当り保険金額
25	スギ	37,850	2,790,000
30		43,974	3,100,000
35		49,530	3,540,000

## 2 里山広葉樹林を対象とした取組（岳北 木島平村 馬曲地区）

### （1）背景

（財）長野県緑の基金が平成6年度から行っている「多様な森林づくりモデル団地設置事業」の一環で「広葉樹をキーワードとした森林の総合的利用と森林の整備」をテーマに平成9年度は下高井郡木島平村馬曲地区にモデル団地が設定された。平成10年度は具体的な整備に着手した。

### （2）馬曲地区の概要

位 置	木島平村の北端 飯山市と境を連ねる
世 帯 数	25戸（過疎化、高齢化が進行している）
団地面積	236ha（主な樹種構成 スギ33% ナラ3% ブナ3% その他広32%）
そ の 他	観光スポットの馬曲温泉には年間約21万人の観光客が訪れる。

### （3）経過

#### ア 基礎調査の実施

##### （ア）現況の把握

- ・モデル団地の森林現況、地元集落の状況の把握
- ・アンケート調査の実施……馬曲地区の森林整備と集落の活性化に関わる事項

対象 地元在住住民 転出住民

都市住民（木島平村と姉妹都市である東京都調布市民）

##### （イ）地区内森林のゾーニング

森林の現況、地区住民の意向をもとに次の5つに区分した。

- ・特用林産物生産ゾーン
- ・木材生産ゾーン
- ・水源林 ゾーン
- ・文化伝承ゾーン
- ・健康保健ゾーン

（ウ）以上をもとにこの地区の活性化の方向性等を懇談会、会議で検討、意見交換。

（エ）報告書作成

#### イ 里山活用事例の実践に向けて

##### （ア）地区（区長、組長）・村との合意形成（地区懇談会5回）

- ・多様な森林づくりモデル団地設置事業報告書内容の再確認
- ・地区の里山活用のためのフリーディスカッション
- ・平成10年度実施内容の方向性の決定

（区長、組長のやる気を引き出す。馬曲温泉の活用。グリーンツーリズムによる姉妹都市住民との体験交流。広報の方法）

- ・事業実施のための現地調査
- ・役割分担

## (イ) 実施内容

「美しい里山づくり作業（北信州グリーンツーリズム）」と銘打って次の内容を実施した。

- ・ 地区住民が里山の整備を都市住民などの幅広い参加を受入れ実施する。ここでは、地区住民を里山整備のインストラクター的な位置付とした。
- ・ 都市住民は1泊2日で参加してもらいグリーンツーリズム形式とした。
- ・ 「健康診断・森林作業体験・馬曲温泉入浴」のメニューを入れ、里山を来訪者の生涯健康保養のフィールドに位置付ける事を試みた。
- ・ 地元高校生が名所、史跡等を調査し馬曲マップを作成。（後継者の意識の熟成）
- ・ 里山活性化対策モデル事業を活用。
- ・ 体験メニューは…

遊歩道整備                   (史跡に通じる歩道の整備)

枝打ち修景施業           (地区の入口)

野鳥巣箱かけ               (地元小学生作成の巣箱)

里山の案内看板づくりと設置   (高校生成成の馬曲マップをもとに根曲りスギ材を加工して22か所に設置。写真-3、写真-4)

健康診断           (保健所による作業体験の前後の心拍等の測定と健康のアドバイス)

馬曲温泉入浴

- ・ 実施日等

平成10年11月7日・8日 1泊2日 参加者80名

## (ウ) 実施結果

体験メニューは予定どおり完了し、地元（ほぼ全世帯参加）をはじめ参加者の里山への関心が高まった。また、健康診断・温泉との組み合わせで里山を生涯健康保養のフィールドとして活用できる可能性を認識できた。そして、このイベントを成功させるために地区の人々が熱心に取り組んでくれたことが大きな成果と言える。

ところで、今回は地区上げての最初の実践となり今後の展開への第一歩となったが、地区の人々はボランティアとして参加している。今後、継続してゆくには何らかの方法で地元や地区の人々に経済効果をもたらす方法を模索研究してゆくことが必要であると思われる。

今後は第2回以降の実施をどのようにするかを検討することと地区ものの造林事業の導入などと併せて、村レベルでグリーンツーリズムを成熟させてゆく事が課題である。

## おわりに

2つのタイプ（経済林、综合利用）の里山整備は以上のとおりの成果を得たが、今後の継続が課題である。このためには地域リーダー的な人の理解を得つつけること、地域の合意を図りながら取り組むこと、経済的な効果が得られることが必要であると思われる。

これらは一朝一夕に具現化できるものではないが、今後私たち林業改良指導員が地域のデザイナー、アドバイザーとして里山整備、山村活性化に関わって行きたいと考えている。



写真-3 里山の案内看板づくり制作中



写真-4 できました！ 私の里山の案内看板